

情勢報告

北川村第1回ユズ研究会及びカラーリング反省会



6月29日夜、昨年のカラーリングの反省会と初めての研究会を行った。先月、産地の将来を検討するため村内6ヶ所で開いた座談会の中でもっとユズの勉強をしたいという声が多く、急遽開催した。内容は、これからする必要のあるユズ玉への白黒サンテの装着と黒点病の防除について質問が多く、1時間延長するほどの活発な勉強会になった。これからは、月1回行うこととし、次回は園地を巡回しこれからの作業をどのようにするのか勉強することとした。

ユズ東川支部研究会の開催



7月12日、まる一日かけユズの勉強会を開催した。朝9時に藤内のユズ団地に集合し、参加者の園地を中心に東川全域を巡回した。どの園も平年並みの着果がみられ、病害虫の発生やこれからの作業について話をしながら、現地検討会を行った。座学では、営農課、振興センターから、これからの作業、黒点病、隔年結果の防止について講習し、これからますます暑くなる中で、体に気をつけて作業を行うように助言した。

野菜生産組織「ちゅうげい」が学校給食へ食材を提供開始



野菜生産組織「ちゅうげい」は野菜栽培農家8名で地産地消を基本に、こだわり野菜を共同で栽培計画し、地域の量販店に販売をスタートして3年たつ組織であった。今回、学校給食への供給の希望がだされ、学校給食関係職員との意見交換の場を7月9日に設定した。そこで、栄養士等に受け入れられ急遽供給する事になり、初出荷を18日おこなった。また、7月26日には学校給食関係職員講習会（安芸郡学校給食連絡協議会主催）で生産者側として意見発表をおこなう予定である。この間、部員も2名増加し、臨時総会も開催するなど盛り上がりを見せており、さらに、このチャンスを活かし、安定した販路の拡大を図り目的が実現していくように支援する。

東京杉野服飾大学で高知県の野菜と安芸の環境保全型農業の取り組みを紹介



小松広幸氏の授業状況

安芸市の生産者で野菜ソムリエの資格を持つ小松広幸氏と振興センター職員が、7月13日に東京の杉野服飾大学3年生約100名に対して、出前授業を行った。出前授業の内容は、ナスを使った料理2品の試食と高知県の農業の特色や食文化、ナスの栽培方法と環境保全型農業の取り組みについてなどであった。

興味を持てるような内容にするため事前に資料作りや試食の打ち合わせを十分行ったこともあり、生徒側からの反応は、予想していた以上の反響があった。また担当の豊満先生からも生産現場の状況が直接生徒に伝わり、何らかのメッセージを受け取ったのではとの感想をいただいた。

高知県の野菜の宣伝を、大いにできたのではと思われる。

芸西エコ農業研究会「説明会・講演会」を開催



籠谷会長あいさつ

環境保全型と地域の生態系保全を一体的に取り組むことを目的とした芸西エコ農業研究会は、広く会員を募集するため「JA土佐あき芸西支所」で講演会と説明会を7月11日に開催した。当日は、芸西村内の農業者、JA・、村役場の関係者が出席した。会長挨拶の後、高知大学農学部の荒川先生から「天敵昆虫の基礎」について講演があり、出席者は講演内容に熱心に耳を傾けた。また、実際に土着天敵クロヒョウタンカスミカメの増殖に成功したバンカープラントの展示もあり熱心な質問も多く、関心の高さが感じられた。これまでは、ごく限られたメンバー内での活動であったが、当日新規に加入した農業者も20名おり、今後、活動の広がりが期待できる。

振興センターとしても、当研究会のメンバーあるいは他地区とも情報交換しながら、土着活用天敵利用技術の向上とそれを活用した環境保全型農業が進むよう支援していく。

JA土佐あき園芸研究会 試験展示圃成績発表会



来作の参考になる技術が
たくさん発表された。

試験圃・展示圃の年間成績を検討する、毎年恒例の「試験展示圃成績発表会」が6月26日（火）に開催され、生産者や関係者など83名が参加した。

今年は、ナス“18t/10aどり”のための栽培管理技術や、土着天敵を利用したIPM技術に関する39件の試験成績がまとめられ、このうち8課題については、生産者自身がパワーポイント等を利用して発表を行った。特に今年は、家畜ふん堆肥利用試験の発表に併せて、畜産農家が堆肥のPRを行ったり、同じ“18t/10aどり”をテーマに、技術面・経営面双方からの分析結果を発表したりと、栽培技術のみにとらわれない、総合的な発表会となった。

参加者からは、「今日聞いた技術を、来作で実行してみたい」「来年は〇〇について調べて欲しい」といった意見が聞かれ、また、ナス経営についての普及指導員の講演はあちこちから講演依頼がよせられている。

「南国そだち」の現地検討会（東洋町野根地区）



栽培圃場を前に検討

6月22日、「南国そだち」の東洋町野根地区における現地検討会を、普通作専門技術員も交えて実施した。

最初に現地圃場を参加者全員で見、意見交換をした後、普通作専門技術員から「南国そだち」の取り組みについての状況説明を、振興センターから現在実施している現地試験の状況説明を行った。

参加者からは、「収量的にも価格的にも納得のいくものであるならば、作期分散のためにも是非とも導入したい」という声が多く聞かれ、注目の高さがうかがわれた。

今後は調査を継続し、その結果を持って本格導入の可能性について検討していく。